



# 2023年 第2回 ITU-D SG1会合の結果

総務省 国際戦略局 国際戦略課

## 1. 概要

標記会合は2023年10月22日～27日の5日間、スイス・ジュネーブITU本部ボボフ会議場で231名（うち86名はリモート）が参加して開催された。会議は初日と最終日の全体会合（PL）と研究課題ごとのラポータ会合（RG）で構成された。

## 2. はじめに

R.F. Assoumou Bessou議長（コートジボワール）とCosmas Zavazava電気通信開発局（BDT）局長からの開会挨拶で会議が開始された。議長は、その挨拶の中で、SG1会合の成果が広く普及するよう、参加者に連携と協力を呼び掛けるとともに、女性や若者の参加促進のために運営側が支援することの重要性を強調した。BDT局長は、コネクティビティを有意義かつデジタルスキルに支えられた手頃なものにするというBDT4Impactのビジョンを共有しつつ、2025年にタイで開催される次回の電気通信開発会議（WTDC-25）において、SG1会合の成果が評価されることを期待していると述べた。

## 3. 会合概要

### (1) 会合全般

課題1：ブロードバンド、課題2：デジタル放送、課題3：災害リスク、課題4：料金政策、課題5：ルーラル通信、課題6：消費者保護、課題7：アクセシビリティの7つの研究課題について会合が開催され、各課題に関するベストプラクティスやケーススタディ等について134件の寄書と16件のリエゾンステートメントが審議された。

今後、各課題とも2024年10月のSG会合で年次進捗報告書、2025年2月のSG会合で今次研究会期の最終報告書を取りまとめることで合意しており、今次会合で紹介された寄書などの議論結果も含めて、各課題のマネジメントチームを中心に作成作業が行われる。

### (2) 我が国としての関与

我が国からは、課題3副ラポータとして今中秀郎氏（NICT）、副議長及び課題4副ラポータとして大槻芽美子氏（NTTデータ）、課題7副ラポータとして松本充司氏（早稲田大学名誉

教授）の3名が参加。

課題7において早稲田大学から1件の寄書を、課題3において総務省から1件の寄書を提出。

### (3) 主な審議内容

#### 【課題1：ブロードバンド】

アフリカ諸国を中心に、更なるデジタル経済の発展のための政策が紹介された。また、農村部などのサービスが行き届いていない人口層へのコネクティビティを拡大し、デジタルデバイドを縮小するための政策が紹介された。ブラジルにおいては、コネクティビティギャップを分析する手法を探求しており、Anatelが開発・算出したブラジルの接続性指数（IBC）によって市町村と県のそれぞれのコネクティビティレベルが示された。インテルは、Wi-Fi 6E、Wi-Fi 7を含むWi-Fi技術の進展と世界的な状況について、最新情報を紹介。

#### 【課題2：デジタル放送】

ブラジルから、デジタル放送に関する周波数利用、衛星放送の利用、最新サービス、アプリケーション育成のための公共政策、地上低所得層にデジタル受信機を提供することでアナログからデジタルへの移行を促し、デジタル放送のカバー範囲を拡大するための政策等の紹介があり、各国からデジタル放送への移行の社会的・経済的コストについての質問やコメントが相次いだ。

#### 【課題3：災害リスク】

総務省から、日本で活用されている緊急警報システムである「Lアラート」のユースケースを紹介。オーストラリアとBDTからシステムの詳細な機能について質問があった。

また、オーストラリアは、自然災害への対応や、ネットワークの回復力を向上させるための政策を紹介。特にアフリカ諸国から、資金問題やKPIについて関心が寄せられた。

#### 【課題4：料金政策】

米国から、ユニバーサルサービスファンド（USF）の管理について、USACは透明性、説明責任、適応性に重点を

置いたプロジェクトを紹介した。スリランカ、ケニア、インドからは、USFの利用対象地域等に関する質問が相次いだ。またケニアからは、農作物やサービス未提供地域等における受益者の統計に関する質問があった。さらにインドから、USFを利用するプロジェクトに対するインパクトアセスメントの措置や手順についての質問があり、議論が賑わった。

## 【課題5：ルーラル通信】

ルーラル地域におけるブロードバンドアクセスとデジタルディバイドは、多くの国にとって課題であり、特に途上国から、事例紹介が寄せられた。ブルンジからは、ルーラル地域におけるネットワークカバレッジ拡大等のICT インフラ配備政策の紹介があった。オーストラリアから、配備に関するすべての目標が達成されたかどうかという質問があり、ブルンジは達成されたと報告した。

## 【課題6：消費者保護】

各国から消費者保護に関する様々な取組みが紹介された。スリランカは、SMSマーケティングのベストプラクティスと、消費者のプライバシーを保護するために適用される規制メカニズムを紹介。フランスは、サービスの質に関して利用者の満足度を確保するためのツール及びセミナーの効果を紹介。ケニアは、「児童オンライン保護・安全プログラム」の下で実施された17以上のイニシアチブを紹介。ブラジルは、ロボコールや迷惑電話を削減するための措置を紹介。

## 【課題7：アクセシビリティ】

各国から、障害者等にデジタルスキルを提供するための指導者の養成事例、人工知能（AI）技術の活用事例、ブ

レイン・コンピュータ・インタフェース技術の活用事例等、障害者が孤立しないための様々な取組みが紹介された。

早稲田大学からは、日本における聴覚障害者と健聴者の更なるコミュニケーション拡大を目指した民間の取組み事例を紹介。KoeTra、UDトーク、みえるでんわなどのアプリがあり、デジタル技術を活用した音声認識機能（音声→テキスト変換）、音声合成機能（テキスト→音声変換）、多言語翻訳機能が、障がい者と健聴者をつなぐ身近なツールとして活用されている。イランから、アプリを使用する際の電話トラフィックへの影響について質問があり、早稲田大学は、翻訳はウェブサイト上で実現されるため、現在のところ、電話トラフィックの増加には影響しないと説明。

## 4. 次回会合日程

SG1ラポータ会合：2024年4月15日（月）～26日（金）

ITUビルの建て替え工事が開始された場合、開催場所はITU敷地外となる。

## 5. おわりに

最後に、本会合参加者各位の積極的な参加及び多大な貢献に対して、この場をお借りして心からの感謝、御礼を申し上げます。ITU-DのSG会合には、開発途上国の情報通信所管庁や研究機関等が多数参加するところ、同会合の活用は海外展開にとっても有効であると考えます。2024年4月の次回会合以降、同年10月には第3回SG会合が開催され、2025年2月の第4回SG会合において今次研究会期の最終報告書が取りまとめられる予定であるので、海外への優良事例の紹介の場としての活用をご検討いただくと幸いです。

## ITUが注目しているホットトピックス

ITUのホームページでは、その時々ホットトピックスを“NEWS AND VIEWS”として掲載しています。まさに開催中の会合における合意事項、ITUが公開しているICT関連ツールキットの紹介等、旬なテーマを知ることができます。ぜひご覧ください。

<https://www.itu.int/en/Pages/default.aspx>